

西日本豪雨災害における 岩手県災害派遣福祉チームの活動

災害福祉広域支援ネットワーク構築セミナー
平成30年11月6日(火) 富士通総研

岩手県災害派遣福祉チーム事務局
(社会福祉法人岩手県社会福祉協議会) 加藤 良太

1

西日本豪雨 岡山県倉敷市真備地区派遣

1 派遣期間及び派遣人数等

派遣期間:平成30年7月11日～7月28日(18日間)

活動場所:倉敷市真備地区指定避難所(岡田小学校)

派遣人数:岡山チームサポート(兼先遣調査)…2名、菟小学校支援…2チーム8名

2 主な活動内容

(1) 岡山チームサポート

初めての活動となる岡山チームの活動の立上げ支援。同チーム事務局・コーディネーター・第1次チームのサポート。

地区内避難所へのチーム介入の必要性の見極め。

避難所内関係者・関係機関・他府県チームの調整。

(2) 菟小学校へのチーム派遣(岡山チーム、静岡チームと協働)

保健師チームと合同で巡回により要配慮者のニーズ把握と支援調整、

医療・看護・リハチームとの連携、福祉相談コーナーの設置、

避難所内連絡会議への参加(状況報告、改善提言)、

避難所内の環境改善(衛生・安全対策、女性への配慮等)、

サロン・自治組織の立上げ提言等

2

活動の様子①



岡田小学校避難所
保健・看護・福祉ミーティング



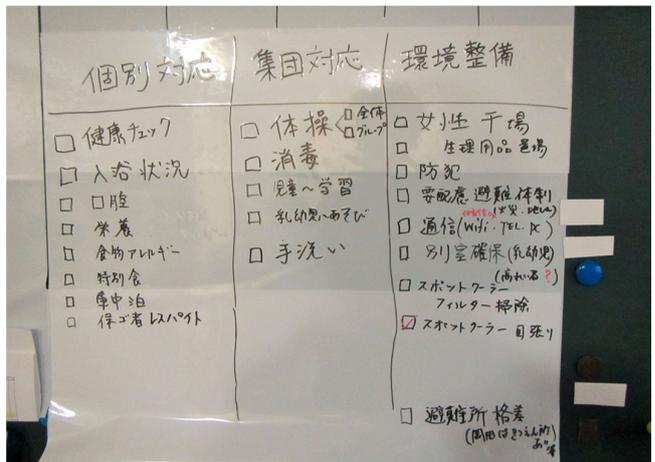
保健師チームは2県体制、看護系チームは複数、JRATは日替わり、という状況で連携は簡単ではなかった。

3

活動の様子②



菌小 避難所内連絡会議「菌の会」



菌小 保健・福祉チーム拠点 掲示板

4

活動の様子③



岡田小学校避難所 保健福祉リハ合同ラウンド



藪小学校避難所内 福祉相談コーナー

5

主な事例

- 精神疾患の母(虐待疑い)
- 外国人
- 発達障がいの子と情緒不安定の母
- 被災後うつ症状
- 体調不良高齢者
- 事業所避難 等



藪小隣り公民館に避難した小規模多機能事業所の代表・管理者と、岡山DWATのヒアリング

6

改めて感じたこと①

• 事業所まるごと避難は、避難スペースが指定避難所か否か、福祉避難所(室)?、事業継続のための仮スペース?・・・、によって対応が変わってくる。

⇒基本的に設置主体や運営主体の判断と思われるが、チームとしてどこまで関わるべきか・・・。

• 「俺、児童分野かじったことないんですよ・・・」(子への虐待疑い事例を対応した高齢分野の社会福祉士)

⇒研修・訓練では、ある程度各種別の想定事例とつなぎ先を習得しておくことが必要。

7

改めて感じたこと②

• 記録の重要性

⇒組織の労務管理として

⇒引継ぎ資料として

⇒今後の活動の素材として

※書かなきゃいけないものとして認識はできているが、根拠や書き方がまだ曖昧。

• 引継ぎの難しさ。24時間の引継ぎ時間を準備したが、それでも充分ではなかったという感想が。

⇒チーム入替え制のデメリット

⇒岩手チームのコーディネーターを配置できなかった。

⇒入替え制ではないスタイルを試行できなかった。

8

改めて感じたこと③

- 要配慮者支援も福祉相談コーナーもサロンも、チームのものではない。市町村・避難所のものであり、代替え・追応急的にチームが担っている。

⇒介入段階から、然るべき担い手へ引き継ぐことを前提にした組立てを

- 「私たちも、今までの災害で、高齢者室とかを設けるとこまではやってきたけど、撤退した後、誰が運営するのかわからないまま帰ってきていた。福祉チームがいると安心だよ。」(岡田小TMAT Na)

⇒福祉チームの必要性を他職種が感じてくれた

9

組織づくり①

- 実際の作業は、会議やチーム員養成で9割を占めるが、重要性のweightとしては、コーディネーション体制(チーム活動の根回し・段取り)の構築が9割。

※チーム員は、伸び伸びと支援に当たってくれる。

⇒事務局員をコーディネーターとして養成
(リーダーはれるぐらいのスキルを！)

⇒チーム員をコーディネーターとして養成

※DMATには、各チームのロジ(業務調整)の他に、ロジチームがある。

※ネットワーク構成団体のバックアップ体制(専門的アドバイスや情報供給、マンパワーのつなぎ合わせ)

10

コーディネーターの心得

～岩手チーム活動マニュアルver.2(案)から～

- チームと行動を共にし、時間で変化する避難所の状況を共有することで、判断、物品の供給、後発チームの編成等、柔軟な動きを心掛ける。
- 避難所(支援現場)から離れることが難しいチーム(員)に代わり、タイムリーに関係機関を訪問(連絡)し、情報収集・発信に努める。
- 重要な経緯や、「伝言ゲーム」になりがちな事項について、チーム間の引継ぎをフォローする。
- チームのマニュアルを熟知し、見落とししている又は不足している支援内容が無いかを確認し、チームに働き掛ける。
- 他チーム間、地元福祉施設等と顔が見える関係を構築し、福祉チームの信頼獲得・有効活用を働きかける。
- 災対本部内各部署の担当状況を確認することが重要...物資、避難所運営、福祉避難所運営等
- 事務局や外部とは緻密なハウレンソウを実施し、混乱しがちな情報の全体像を判断する。
- チームは有期限であることを連携会議等で周知しながら、撤退が適切な時期と方法によってなされるようコーディネートする。
- 常に広く客観的な発想を持ち、住民に必要と思われる支援(チームでなし得ないものでも)を想像し、然るべき機関に働きかける。
- 被災地域に、保健・医療・福祉連携会議が開催されるよう、関係機関に連携を図る。

⇒ ニーズに基づく調整と、顔が見える関係づくり

11

組織づくり②

- 本部・事務局体制
担当ひとり体制では回せない。社協なら、ボラセンもあるので、予め災害対応時の役割分担と訓練を。
- チーム撤退後、中長期支援者への引継ぐ場合の、方程式化
- 都道府県行政がしっかりと管理と判断・責任取る体制を確立しつつも、関わる検討メンバーが主体的に運営するものに。下し過ぎず、引き上げ過ぎず。
- 最終的に、チームはチーム員のものであり地域住民のものとなるような取組みを。

12

ご清聴ありがとうございました。



この子らに応えるために。岩手から全国の福祉チームの充実を願って。